中部様式

令和２年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

湖西市地域公共交通活性化協議会

平成２２年3月１９日設置

フィーダー系統　令和２年７月２２日　確保維持計画策定等

１.直近の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
・モビリティマネジメントの着実な実施は評価する。（①小学生を対象とした乗り方教室の開催、②企画乗車券の企画・作成など）	①乗り方教室 ⇒コロナ禍により中止 ②企画乗車券（片道定期券の販売） ⇒継続販売中	①乗り方教室 ⇒開催方法の変更等（ＳＮＳの活用など）を含めて再検討し実施予定 ②片道定期券 ⇒販売を継続
・「運行評価改善委員会」などからの提案・改善策を基にさらなる利用促進策や運行の効率化に繋がることを期待する。 ・計画に基づき事業を実施するとともに、目標値に満たない路線については利用状況を分析し、事業を実施すること。	・ゾーン制運賃の見直し ⇒利用者から分かりづらいとの指摘を受け令和２年１０月より市内一律運賃へ。 ・評価改善委員会におけるコーちゃんバス事業（コミュニティバス事業）の乗車実績に評価基準を設定 ⇒利用者数、１便当たり平均乗車人数等に関して定量的評価基準を設定。 ・Ｈ２８実績と比較し ＋５%以上であれば「Ａ」 ±５%であれば「Ｂ」 －５%以下であれば「Ｃ」	・引き続き利用者、評価改善委員会等の意見に耳を傾け、利便性向上や効率化を図り、持続可能な公共交通とする。

■ 地域公共交通の将来像である

「誰もが、安全・安心・快適に移動できる交通環境が充実した暮らしやすいまち」

の実現に向け４つの基本方針を定めています。

基本方針１

鉄道、路線バス、コーちゃんバス及びタウシーが一体となり、日常生活の移動を支える地域公共交通ネットワークを形成します。

基本方針２

公共交通の充実により各拠点のにぎわいと交流の創出を支援します。

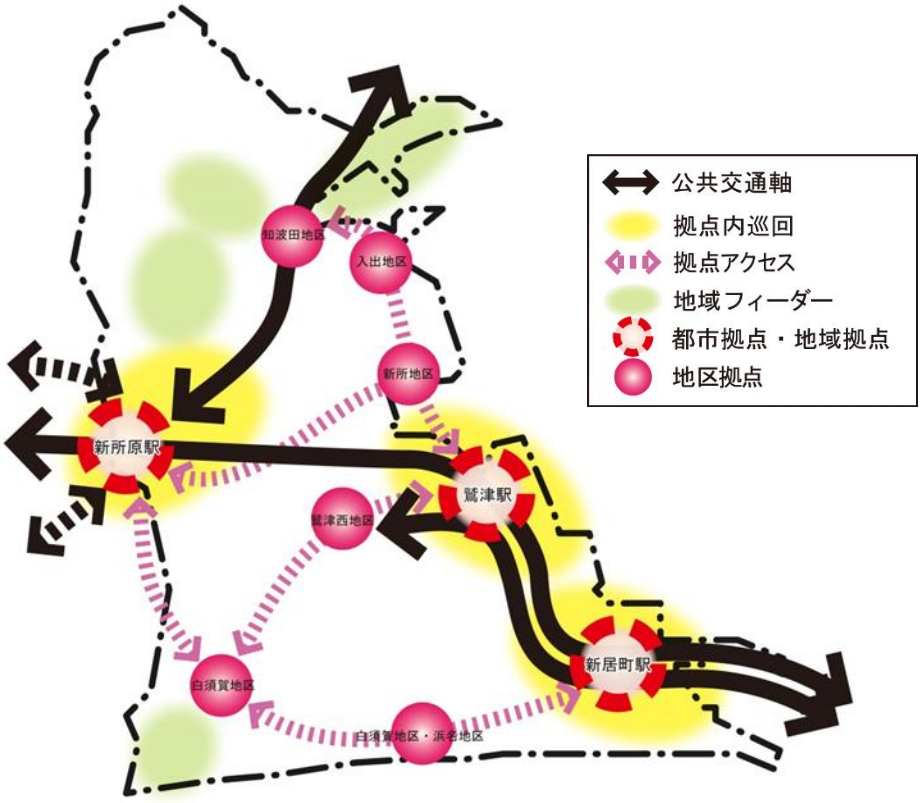
基本方針３

市民や利用者に分かりやすく、利用しやすい公共交通サービスを提供します。

基本方針４

多様な主体の連携・協働による取り組みを推進するとともに、地域公共交通を育む仕組みを構築します。

図　地域公共交通のネットワークイメージ



1．路線の再編

■ 再編の目的

利用ニーズの増加、多様化が進む中で持続可能な公共交通とするために抜本的な見直しを検討する必要があった。

利便性の向上と財政負担の軽減の両立

目指す姿としては・・・

・コーちゃんバス事業
　複雑かつ長大な運行経路を圧縮し、乗車時間を短縮

・デマンド型乗合タクシー
　運行範囲を市全域に拡大

■ 再編の内容

① 知波田鷲津線の廃止と入出新所鷲津線の延伸
　※路線名を知波田入出線に変更

② 知波田地区から岡崎地区への
　新系統の設置（知波田入出線）

③ 白須賀鷲津線の路線短縮

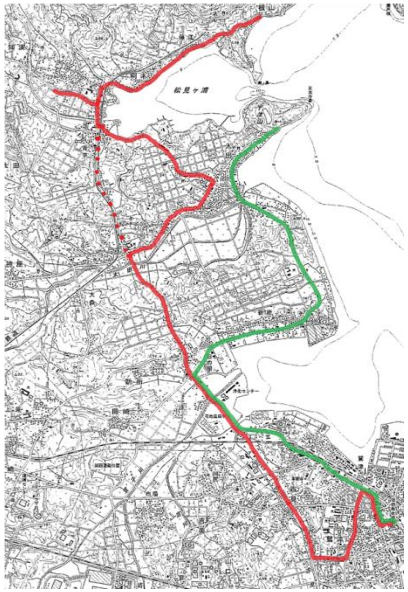
④ 白須賀岡崎線の減便、路線の見直し

⑤ 岡崎循環線の増便、路線の見直し

⑥ 岡崎鷲津線の路線の見直し

①、②の再編図
（2路線⇒1路線）

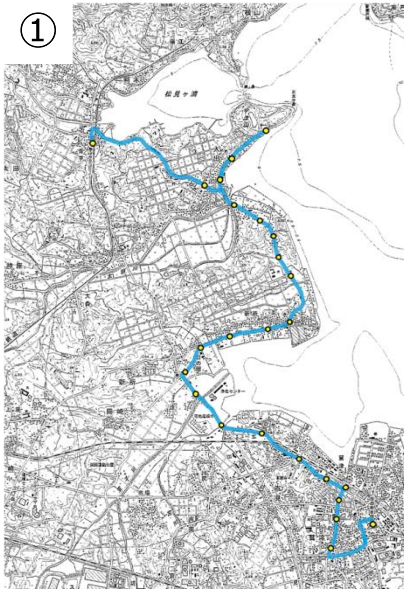
再編前



赤線：知波田鷲津線
緑線：入出新所鷲津線

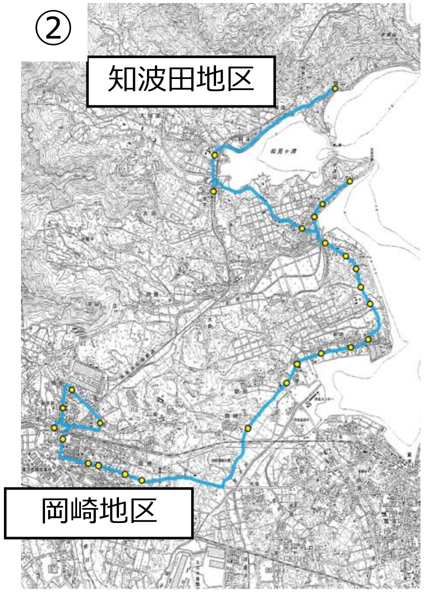
再編後

①



知波田入出線

②



2．運賃の見直し

■ 見直しの方針

① 分かりやすく利用しやすい運賃体系の導入

② 小学生などの通学利用者への負担増への配慮

③ 利便性と財政負担の両立を考慮

■ 見直しの内容

① ゾーン制運賃（基本１００円＋地区を跨ぐ毎に１００円加算）

⇒市内全域一律運賃へ（一律２００円）

②定期券制度に小人割引の導入（割引率５割）※小学生は見直し前と同額での乗車可能

3．デマンド型乗合タクシーの拡大

■ 導入に向けた検討

・新居地区・・・地元自治会との協議、公共交通会議での意見交換実施

■ 実証実験

・知波田地区・・・令和元年１１月より実証実験開始（継続中）

■ 本格運行

・白須賀地区・・・実証実験にて目標値を達成し、令和２年４月より本格運行開始

○デマンド型乗合タクシー（白須賀地区実証実験）に関する目標値との照合結果

評価指標	１日当たり利用者数	世帯登録者数	乗合率	利用者満足度	地域と協力した取組
目標値	5.0人/日以上	25%以上	1.25人以上	60%以上	月1回以上
R2.2月末時点	7.5人/日	26.26%	1.20人	73.80%	1.04回/月

4.計画の達成状況の評価指標とその結果　（Check）

■ 評価の方法

湖西市地域公共交通会議と湖西市バス運行評価改善委員会により評価・検証

■ 評価の基準

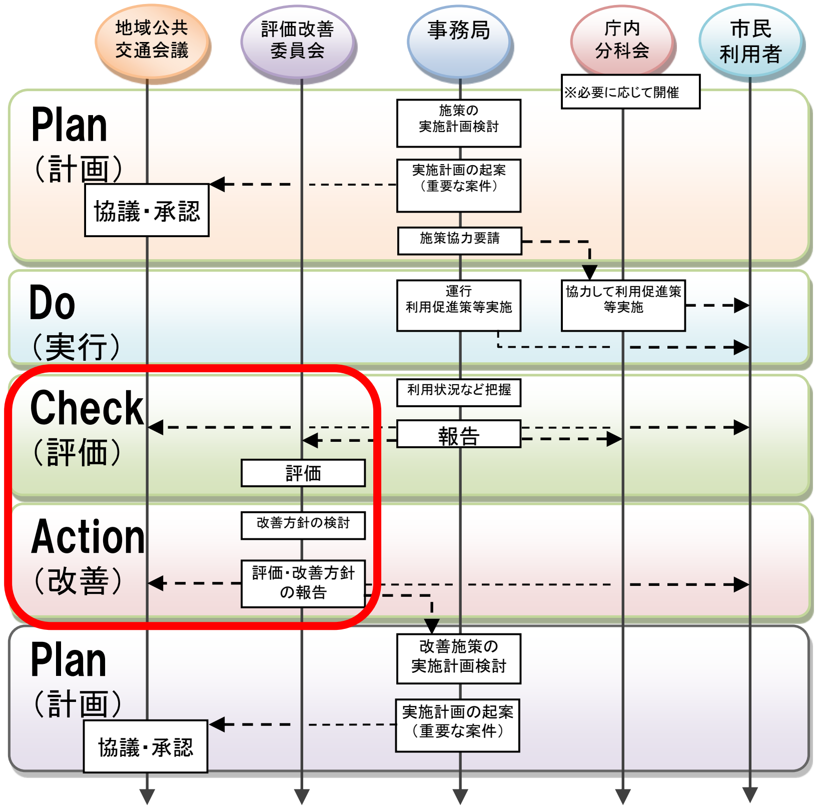
・定量的な評価基準　対象：コーちゃんバス運行実績

評価指標	基準数値	判定結果
延べ利用者数	平成28年度コーちゃんバス各路線毎の利用者数	A：5%以上増加　B：+4.9%～4.9% C：5%以上減少
１日当たりの平均乗車人数	平成28年度コーちゃんバス各路線毎の１日当たりの平均乗車人数	A：5%以上増加　B：+4.9%～4.9% C：5%以上減少
１便当たりの平均乗車人数	平成28年度コーちゃんバス各路線毎の１便当たりの平均乗車人数	A：5%以上増加　B：+4.9%～4.9% C：5%以上減少
利用者１人当たり市の負担額	平成28年度コーちゃんバス各路線毎の利用者１人当たりの市の負担額	A：5%以上減少　B：+4.9%～4.9% C：5%以上増加

・定性的な評価基準

※自己評価の三段階評価
A：事業が適切に実施・検討された、効果が顕著
B：事業が適切に実施・検討された、一定の効果がある
C：事業が実施・検討されていない、改善が必要

評価の体系図



■ 評価の結果

Ａ評価：７事業（公共交通マップの見直し、コーちゃんバスを上手に利用する会の取り組みなど）

Ｂ評価：１８事業（コーちゃんバス路線の再編、運賃体系の見直しなど）

Ｃ評価：４事業（モビリティマネジメントの実施、交通事業者と連携した取り組みなど）

■ 参考：評価報告書の一部抜粋

公共交通網形成計画に基づき実施した事業の評価を評価改善委員会にて実施

事業名	事業内容	今年度の取り組みに関する評価		来年度の取組提案
乗継環境の整備	①乗継拠点や主要なバス停の乗継環境整備 ・拠点駅や主要なバス停での乗継利便性の向上 (H29検討)(H30～R3実施)※P16	B	車内において乗継案内チラシを作成し情報提供を行うとともに、交通マップや市ウェブサイト等で周知を実施した。	サービス水準を維持して情報提供を継続する。
公共交通に関するわかりやすい情報を提供する事業	①公共交通利用に係る積極的な情報提供 ・バス停(コーちゃんバス)の案内表示の多言語化の実施) (H29検討)(H30～R3実施)※P16	B	バス停修繕や更新時に合わせて追加している。	引き続き修繕及び更新時に合わせて追加する。
	・公共交通マップの企画・作成・見直し(H29～R3実施)※P17	A	市内を運行する公共交通を網羅した総合交通マップを作成し公共交通の利用促進を図るため、令和2年10月1日の再編及び運賃改定に合わせて全体図を大幅に拡大し、バス停位置が分かりやすい設計とした。	ダイヤ改正などで再度作成する際は、より分かりやすい公共交通マップにするための見直しを行う。
	・バス利用啓発ポスターの企画・作成・見直し(H29～R3実施)P18	C	今年度においては、コロナ禍により、企画・作成等については自粛した。	コロナ禍の状況により啓発内容の変更等を行い事業を継続する。
	②分かりやすい運行情報・乗継情報の提供 ・公共交通マップへのわかりやすい乗継情報の掲載等(H29～R3実施)※P18	A	令和元年10月ダイヤ改正に合わせて更新し令和2年10月1日改正の総合交通マップについて、レイアウトの変更に合わせて更新した。	ダイヤ改正などで再度作成する際は、より分かりやすい公共交通マップにするための見直しを行う。
	・拠点駅におけるバス乗り場の案内表示の設置(H29検討)(H30～R3実施※P18	-	平成30年度において、拠点駅の整備事業に合わせて設置した。（R1自己評価：B)	案内表示の維持管理を行う。
	・主要施設や主要バス停でのバスロケーションシステムの検討(H29～R1検討)(R2～R3実施)　※P18	B	導入に対しての費用対効果について検討中。	スマートフォンの活用も含め、利用者の年齢層、費用対効果等を考慮し、導入の是非について検討を行う。

■ 評価改善委員会による今年度の取組評価及び来年度の取組提案を基に事業を実施

来年度の取組提案の一部抜粋

① 地域フィーダーについて新居地区内の自治会への説明や地元住民へのＰＲなどの実施

② 公共交通マップについて見直し時に利用者の意見等を取り入れより見やすいものを作成

③ 利用者への情報提供についてＳＮＳの活用も含め、利用者の年齢層、費用対効果等を考慮し、導入の是非についての検討実施

④ モビリティマネジメントの実施（小学生の乗り方教室など）コロナ禍の状況により開催方法の変更等を含めて検討

その他の取り組み

■ 利用ニーズの増加、多様化が進む中で持続可能な公共交通とするための検討

・デマンド型乗合タクシーの拡大

・コーちゃんバスの見直し

・企業シャトルＢａａＳの取り組み　　など

スケジュール

■ 公共交通網形成計画に合わせて実施

・令和３年度が最終年度となるため、次期計画策定も並行して実施

事業名	事業内容	実施スケジュール										実施主体	基本方針			
		H29		H30		H31		H32		H33			1	2	3	4
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期					
公共交通軸	①東海道本線															
	・現行サービス水準での運行【継続】											交通事業者	○	○		
	②天竜浜名湖線															
	・現行サービス水準での運行【継続】											交通事業者	○	○		
	③浜名線															
	・現行サービス水準での運行【継続】											交通事業者	○	○		
	④県境を越える新設路線															
	・新設路線の検討											交通事業者 行政	○	○		
拠点内巡回・拠点アクセス	①コーちゃんバス															
	・現行サービス水準での運行【継続】												○	○		
	・路線の再編											交通事業者 行政	○	○		
	・運賃体系の見直し													○	○	
	②自主運行バス浜名線															
	・現行サービス水準での運行【継続】												○	○		
	・路線の再編											交通事業者 行政	○	○		
	・運賃体系の見直し													○	○	

湖西市公共交通網形成計画スケジュール（一部抜粋）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和3年1月6日

協議会名： 湖西市公共交通会議

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
浜松バス株式会社	岡崎循環線 浜名病院発着系統	・湖西市地域公共交通網形成計画に基づき利用促進策を含む様々な事業を展開した。その結果を評価改善委員会にて事業毎に評価を行い、来年度への改善提案をすることで、湖西市が目指す交通ネットワークの実現に繋げるように取り組んだ。 ・利用促進や運行の効率化を図るため、自治会、公共交通会議、運行事業者等と協議を行うとともに、路線の再編や運賃の見直しについて検討し、令和2年10月1日に路線再編、運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：3,138人 利用者実績：2,552人 （−18.67%） ・コロナ禍による通院者、JR新所原駅への利用者の減少が主な要因と考えられる。	令和2年10月に路線再編を行っているため、再編後の利用者数の推移、利用者、運行事業者からの意見、移動ニーズ、実態を把握しながら、必要な見直しを行う。
浜松バス株式会社	白須賀岡崎線 通学系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：11,233人 利用者実績：8,877人 （−20.97%） ・コロナ禍による通学者（白須賀小学校）、通院者の減少が主な要因と考えられる。 また、デマンド型乗合タクシーの利用者が増加しており、運行経路上にある地域（白須賀第3、4、6自治会）住民の移動手段の変化も一因と考えられる。	令和2年10月に路線再編を行っているため、再編後の利用者数の推移、利用者、運行事業者からの意見、移動ニーズ、実態を把握しながら、必要な見直しを行う。
浜松バス株式会社	白須賀岡崎線 おんやど白須賀発系統（第1−2便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀岡崎線 浜名病院発系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀岡崎線 おんやど白須賀発系統（第2〜4便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀岡崎線 おんやど白須賀発新所原駅系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀鷲津線 通学系統（長谷西発鷲津駅着）		A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：16,567人 利用者実績：14,721人 （−11.14%） ・平成28年より毎年利用者数が増加していた路線である。コロナ禍により通勤者、通院者が減少したことが減少に繋がったと考えられる。（H28実績：13,829人、R1実績：16,849人）	令和2年10月に路線再編を行っているため、再編後の利用者数の推移、利用者、運行事業者からの意見、移動ニーズ、実態を把握しながら、必要な見直しを行う。
浜松バス株式会社	白須賀鷲津線 鷲津駅発長谷西系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀鷲津線 長谷西発湖西病院系統 （豊田佐吉記念館除く。3便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀鷲津線 長谷西⇔湖西病院系 4−5便、2−5便		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀鷲津線 鷲津駅⇔湖西病院系統（豊田佐吉記念館除く。6.7便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

浜松バス株式会社	白須賀新居鷲津線 通学系統	前頁と同様	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：16,411人 利用者実績：12,014人 （−26.78%） ・白須賀地区と新居地区を循環して鷲津地区を結ぶ長大な路線であり、長時間の乗車が必要な点、少ない運行便数となる点により、利便性が低いと考えられる。また、白須賀地区でH30.3月から運行を開始しているデマンド型乗合タクシーの利用者が増加しており、運行経路上にある地域（白須賀第1、2自治会）住民の移動手段の変化も一因と考えられる。	長大な路線のため便数が少なく、乗車時間も長い。また、白須賀地区において、デマンド型乗合タクシーが運行しており、運行エリアが重複している。地域住民の移動ニーズや実態を把握し、それらに合った路線の改善を検討する。（現在検討中）
浜松バス株式会社	白須賀新居鷲津線 JA白須賀支店発系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	白須賀新居鷲津線 市役所発系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	知波田鷲津線 通学系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：10,223人 利用者実績：8,587人 （−16.01%） ・コロナ禍による通学者（知波田小学校）、JR鷲津駅を使用する通勤者の減少が主な要因と考えられる。	令和2年10月の路線再編により知波田鷲津線を廃止し、入出新所鷲津線を延伸することで新たに「知波田入出線」として運行となる。再編後の利用者数の推移、利用者、運行事業者からの意見、移動ニーズ、実態を把握しながら、必要な見直しを行う。
浜松バス株式会社	知波田鷲津線 大知波西⇔湖西病院系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	知波田鷲津線 横山会館⇔湖西病院系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	岡崎鷲津線 浜名病院発（第1便）系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：16,387人 利用者実績：13,027人 （−20.50%） ・コロナ禍による通院者、買い物利用者の減少が主な要因と考えられる。	令和2年10月に路線再編を行っているため、再編後の利用者数の推移、利用者、運行事業者からの意見、移動ニーズ、実態を把握しながら、必要な見直しを行う。
浜松バス株式会社	岡崎鷲津線 湖西病院発（第1便+木曜系統）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	岡崎鷲津線 浜名病院発 アメニティプラザ経由系統（2-5便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	岡崎鷲津線 湖西病院発 アメニティプラザ経由系統（2-5便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	岡崎鷲津線 浜名病院発木曜系統（2-5便）		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
浜松バス株式会社	入出新所鷲津線 正太寺鷲津駅系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	利用者目標：18,433人 利用者実績：17,447人 （−5.35%） ・コロナ禍による通勤者、通院者の減少が主な要因と考えられる。	令和2年10月の路線再編により入出新所鷲津線を延伸し、知波田鷲津線を廃止することで新たに「知波田入出線」として運行となる。再編後の利用者数の推移、利用者、運行事業者からの意見、移動ニーズ、実態を把握しながら、必要な見直しを行う。
浜松バス株式会社	入出新所鷲津線 正太寺湖西病院系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年1月6日

協議会名:	湖西市地域公共交通会議

評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業（フィーダー）

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	多様な公共交通が相互に連携し、市民の生活行動や来訪者の移動ニーズに応じた公共交通ネットワークを形成することで、誰もが、安全・安心・快適に移動できる交通環境が充実した暮らしやすいまちを実現する。